和歌山市　景観まちあるき

～第２回　万葉の地和歌の浦を訪ねる～

平成 23 年 11 月 12 日（土）

主催：和歌山市　協力：NPO 法人市民の力わかやま

プログラム・講師紹介・写真募集について

■本日のプログラム

１３：００　和歌の浦アート・キューブに集合
講師紹介、景観まちあるきのレクチャー

１４：００　まちあるき開始
不老橋　→　観海閣・海禅院・妹背山登頂　→　塩竈神社　→　玉津島神社・奠供山登頂　→　（法福寺・養泉寺）→　明光商店街（梅本邸・宗善寺・多田邸）　→　和歌浦天満宮

１６：００　和歌浦天満宮に到着（予定）
アンケートにご記入いただき、解散

※行程や交通事情等により、若干時間が前後することもあります。

■講師紹介

中島暁子氏

和歌山市語り部クラブ、海南市語り部の会、熊野古道紀伊路語り部の会、和歌の浦語り部の会の４つの会の地域で語り部をされており、それらを含め、県のガイドである和歌山県観光ガイド専門員「紀州語り部」としてご活躍されています。

■写真募集・絵はがきづくり

・参加者の方にはデジカメ等を持参していただき、当日道中の景観を撮り、その中でベストショット一点に「タイトル」「コメント」を付けて提出していただきます。

・提出頂いた写真は、和歌山県景観ポータルサイト「きのくに風景讃歌」に掲載するとともに(http://www.kinokuni-sanka.jp/)、12 月 3 日（土）に予定している景観シンポジウムで展示します。

・提出頂いた写真をもとに絵はがきセットとして制作し、景観シンポジウムで参加者に配布します。

＜提出方法＞　提出期限：11/18（金）まで

デジカメの場合：　市都市整備課　toshiseibi@city.wakayama.lg.jp　宛にメールで送付
もしくは USB メモリなどで持参

フィルムの場合：　六つ切りサイズに出力したものを市都市整備課に持参

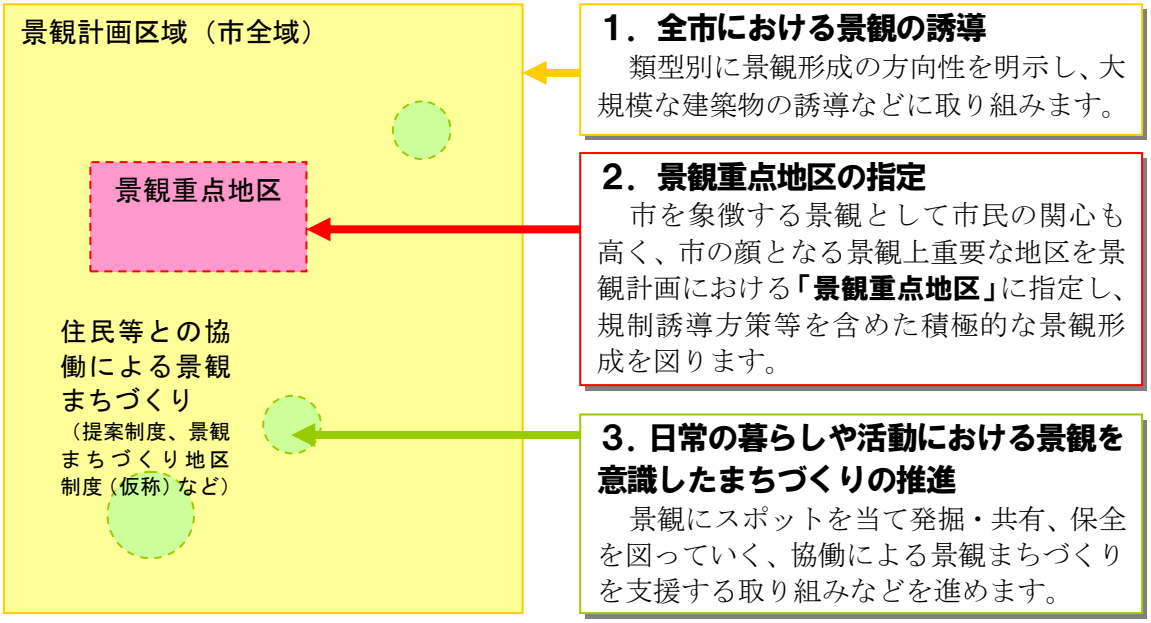
※和歌山県景観ポータルサイト「きのくに風景讃歌」は NPO 法人市民の力わかやまによって運営されています

和歌山市の景観形成の取り組み

和歌山市では、良好な景観づくりを進めていくため、景観法に基づく景観条例の制定・景観計画の策定を行いました。

○景観計画では、**「紀の川・紀伊水道の豊かな自然、古墳・万葉・城下町の歴史・文化を礎とした　美しく風格のある和歌山市の景観づくり」**を理念として位置づけ、今後良好な景観づくりに向けて様々な取り組みを進めていくことを明記しました。

○景観計画の中で**「和歌山城周辺景観重点地区」**を指定し、重点的に景観づくりを進めていくこととしました。
今後は、第２弾として和歌の浦を対象に追加指定の検討を進めていくこととしています。

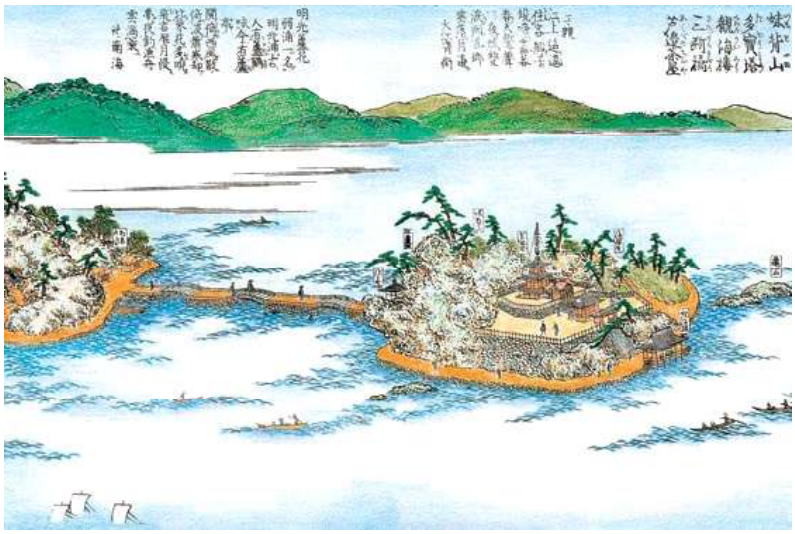


景観まちあるきのヒント

■１．和歌の浦の景観の魅力を堪能しましょう

和歌の浦は、昔からその景観の魅力が歌に詠まれ、図会にも描かれ、さまざまな文化人が愛でてきた場所です。図会で描かれた風景と現在の風景を見比べてみても、市街化は進んでいるものの、昔からの景観の面影を感じることができます。

中島さんのガイドのもと、時代を超えて受け継がれてきた和歌の浦の景観の魅力を堪能していきましょう。



妹背山と鏡山つなぐ三断橋
～妹背山

和歌浦の妹背山から三断橋、鏡山の先端部付近を南側から俯瞰した約 200 年前の風景です。

中央の三断橋は、頼宣による妹背山周辺整備の一環として妹背山と玉津島を結ぶため、慶安 4 年（1651）ごろに架けられたものと思われます。

橋のたもとには 2 艘の舟がえがかれており、ここから紀三井寺へ巡礼の人たちを乗せた舟が出ていたのでしょう。

※出典：2009 年 10 月 10 日から 12 月 26 日まで、ニュース和歌山特集（新聞記事）で 13 回にわたり掲載した『和歌浦の風景～カラーでよむ「紀伊国名所図会」～』から一部転載
（解説：額田雅裕、彩色：芝田浩子、発行：ニュース和歌山）

観海閣からの眺め（昭和 11 年頃）
（提供：山口隆章氏）
※出典:「和歌山市制施行 120 周年記念写真集　ふるさと和歌山市」（郷土出版社刊）

現在の観海閣からの眺め

■２．あえて「外から観る視点」で

景観とは、いわば「空気みたいなもの」。なくてはならない大切なものですが、普段はその大切さになかなか気づきにくいものです。

今日の参加者の中には和歌の浦にお住まいの方もおられるかもしれませんが、大半はそうではない方々と思います。そうしたとき、あえて「外から観る視点」が、景観の素晴らしさを再発見するきっかけとなることが多くあります。

思い思いにカメラを向けてみて、あなたが「いいな」と思う和歌の浦の景観の魅力を見つけてみてください。そして、それのどんなところが「いいな」と思ったのか、をぜひ教えてください。

※ただし、カメラでの撮影にはマナーに注意しましょう。

■３．和歌の浦で営まれている「暮らし」の一端にふれてみましょう

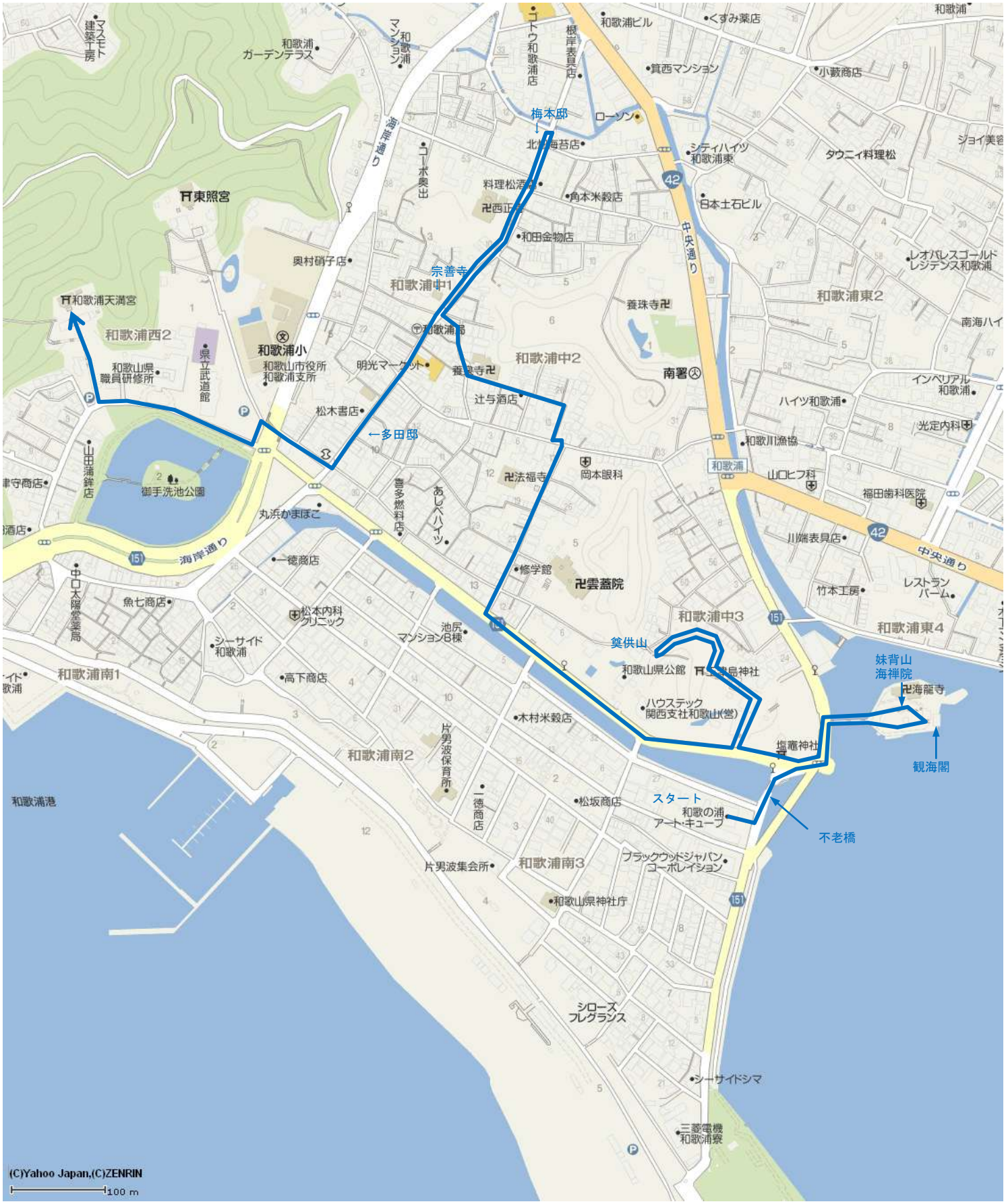
景観は、そこで営まれている暮らしによって育まれていくものです。例えば、道をきれいに掃除したり、花を飾ったり、家屋の手入れをしたり・・・そういうお住まいの方々の暮らしが積み重なって、美しい景観が保たれます。

今日のコースでは、昔から和歌の浦で暮らしを営んでおられる方のお宅にお邪魔し、お話をうかがうことができるプログラムが用意されています。

もしかしたら、家屋を維持していくことにご苦労をお持ちかもしれません。そうした暮らしの一端にふれてみることも、景観を考える上ではとても大切なことです。

２．の「外から観る視点」とあわせて、そこでお住まいの方々の気持ちにも思いをはせてみましょう。

景観まちあるきルートマップ　　気になるポイントなどがあれば、メモしておきましょう



和歌山市景観まちあるき「万葉の地和歌の浦を訪ねる」

コース：　不老橋　→　観海閣・海禅院・妹背山登頂　→　塩竈神社　→　玉津島神社・奠供山登頂　→　（法福寺・養泉寺）→　明光商店街（梅本邸・宗善寺・多田邸）　→　和歌浦天満宮

○不老橋（ふろうばし）

片男波松原にあった紀州東照宮御旅所の移築に際して、第１０代紀州藩主徳川治宝の命によって架けられました。石材は和泉砂岩を使用し、敷石やアーチ部分の内輪石には直方体状の石材が使用されています。

○海禅院多宝塔（かいぜんいんたほうとう）

日蓮宗の寺院。徳川家康の３３回忌の際、養珠院（お万の方）が、妹背山に法華経を書写した経石を納めた石室を造り、その上に小堂を建てたのが創始とされています。１９６７年（昭和４２年）に和歌山市指定文化財となりました。

○観海閣（かんかいかく）から眺めた和歌浦の干潟

○妹背山全景図（紀伊国名所図会）

和歌川河口に浮かぶ妹背山は、周囲２５０ｍ程の小島で、相模の江ノ島、近江の竹生島それに安芸の厳島と並ぶ水辺の名勝でした。

○現在の妹背山の全景

○玉津島神社（たまつしまじんじゃ）

玉津島一帯は、玉出島ともいわれ、いにしえ島山があたかも玉のように海中に点在していたと推察され、かの山部赤人の賛歌に「神代より然ぞ貴き玉津島山」と詠まれた如く、風光明媚な神のおわすところとして崇められてきました。

○塩竈神社（しおがまじんじゃ）

玉津島神社の祓所から、大正６年（１９１７年）に神社となり、海の幸の神、安産、子授けの神として尊崇されています。

○奠供山（てんぐやま）（標高３３ｍ）

聖武天皇が「玉津島行幸」でこの山に登り海を望み、和歌浦の景観に感動し、この地の景観を守るため守戸を置くことを命じたとされています。

○奠供山山頂から不老橋、あしべ橋を眺めた美しい景色

○明光商店街の穴場スポット

① 梅本邸

文化庁指定の登録有形文化財（大正２年建築）。昔の織布業のお家。正面１階は出格子を連ね、２階壁は黒漆喰塗りの重厚な外観はまち並みの景観を引き立てています。また、土間には、土を固めた凹凸があり、まるで「さざなみ模様」のようです。

② 多田邸

文化庁指定の登録有形文化財（明治９年建築）。元々は和歌浦地区初の呉服店であり屋号は丸為。天井の低い虫籠（むしこ）窓の付いた２階建てで、和歌浦の歴史景観を感じさせてくれます。

③ 宗善寺（浄土真宗本願寺派）明応４年（１４９０年）創立

桑山玉洲（１７４６~１７９９）の墓所。玉洲の先祖は和歌山城代家老桑山重晴である。祇園南海、野呂介石と共に紀州三大南画家と称される文人画家であった玉洲は、生涯和歌浦を愛し、和歌浦を描いた絵を多く残しております。

※この他、明光商店街付近には、西正寺、養泉寺、法福寺など、歴史を感じさせてくれる様々な魅力のあるスポットがあります。

○和歌浦天満宮（わかうらてんまんぐう）

延喜元年（９０１年）に菅原道真が太宰府に向かう途中、海上の風波を避けるために和歌浦に船を停泊しました。その時、神社が鎮座する天神山から和歌の浦を望み、２首の歌を詠みました。その後、村上天皇の康保年間（９６４ － ９６８年）に参議橘直幹が大宰府から帰京する途中に和歌浦へ立ち寄り、この地に神殿を建て道真の神霊を勧進して祀ったのが始まりとされています。天満宮は和歌浦天神山（標高約９３m）の中腹に位置し、菅原道真を祀り、和歌浦一円の氏神として尊崇されています。

～　おわりに　～

その昔、紀の川は和歌浦湾に注いでいました。神亀元年（７２４）奈良の都を出発した聖武天皇の一行は紀の川を下り、この和歌浦湾に御幸されました。そこには都で見ることができない海の風景が広がっていました。その頃の和歌浦には島々が玉をつらねるように点在し、潮の満ち干きによって変化する、干潟の風景や、葦原と群れ遊ぶ水鳥、水面に写る陽の輝きなど感動的な景色が存在しており、このことは、その時同行した宮庭歌人がたくさんの歌を詠んでいることからも容易に想像できます。

今、和歌浦の景観は時代とともに大きく変わりつつあり、聖武天皇の眺めた「和歌の浦」の風景がそのままであるとはいえないですが、和歌浦天満宮楼門から見渡す和歌浦の風景には、未だに遠い昔を彷彿させるものがあります。

空と海と山が一体となる和歌浦の景観は、私達の心に喜びと安らぎを与えてくれるため、このような景観を大切にしていきたいものです。

～　お疲れ様でした　～

今後の予定のご案内

●景観まちづくりシンポジウム～和歌山市の素晴らしい景観を未来へ～

日程：平成２３年１２月３日（土）１４：００～

場所：和歌の浦アート・キューブ

※第１回・２回のまちあるきのベストショットを展示するほか、景観絵はがきセットを作成、配布する予定です。ふるってご参加ください。

詳しくは同封のチラシをご参照下さい。

＜ＭＥＭＯ＞